

夏から続く異常に長い猛暑も流石に少しは和らいできましたが、食糧や燃料他の物価高の拡大が止まらず、庶民としては家計の心配の種が尽きず、頭の痛い処です。

それでも、関西地方にとって暗い話ばかりではなく、再来年開催予定の「大阪・関西万博」も出展パビリオン等の建設計画の遅れはあるものの、関西経済にとり一つの起爆剤です。

また、この9月にプロ野球では阪神とオリックスの関西球団が夫々リーグ優勝を果たし、関西経済に良い風を吹かせてくれています。

個人、企業や団体が苦境であろうとなかろうと、常に前向きに「明るいが一番」ですね。会員の皆様も、それぞれ夢や目標に向かって一步一步前進しようとして工夫をされていることと思います。今後とも、当倶楽部も及ばずながら少しでも応援できたらと思っております。

種々の示唆を得た「明るいセミナー」

去る9月4日、「第61回 明るいセミナー」を開催致しました処、多数のご参加を得ることができ、誠に有難うございました。今回のトップ対談では、シニアを戦力として特定の金網を単品生産する藤田鉄網商工(株)の藤田靖三社長にご登場願ひ、企業スタンスの明確化や特異な雇用の導入等、種々の示唆を得ることができたように思います。

(ご講演の概要につきましては、次頁をご参照下さい。)

明るいシステム倶楽部

ホームページ

< 10月の送付物 >

- ① 日本一明るい経済新聞 10月号
- ② 年会費納入のお願い (該当者のみ)



< 10月の主な活動予定 >

10/7(土)	気楽な ZOOM サロン(34)	当倶楽部会員専用の交流の場です	20:00~21:30
10/11(水)	役員会議(39)	今年度事業計画の具体化等	13:30~14:40
10/11(水)	明るいシステム検討会議(22)	「明るいこと」の意味ほか	15:00~16:00

10/18(水)~19(木) 「大阪勧業展」 マイドームおおさか 1~3階フロア

当倶楽部も「大阪府産業支援型協議会」の一員として出展予定です。

AKS 市民大学 (ZOOM 形式)・・・開催する曜日に一部変更がありますので、ご留意下さい。

10/11(水)	菊池教室(33)	「感性を育む和学講座、古事記」	20:00~21:30
10/24(火)	柴原・松居教室(26)	「みんなで考える明るい職場」	20:00~21:30
10/28(土)	宮崎教室(37)	「あっ！と驚く問題解決法」	20:00~21:30

「第61回 明るいセミナー」の経営トップ対談を伺って

— 逆転の発想に自然と繋がった —

明るいシステム倶楽部

副理事長 兼 事務局長 高村 和義

以下、藤田鉄網商工（株）の藤田靖三社長の話の中で印象に残った点をご紹介します。

事業の承継

事業創立者の実父が阪神大震災を経て体調を崩し逝去された後、その事業を引継がれたとのことです。

前職は近畿日本ツーリストの営業、現職は製造業ということで随分と畑違いの仕事を引き継がれ、当初は戸惑いながらも門外漢ならではの本領を發揮し、却って自由な発想で事業に取り組めたのかもしれない。

シニア層にターゲット

日常の業務内容は、地方自治体からの金網の大量発注を受ける形でしたが、新規雇用の募集を考える時に、金網製造と言えば若い人に人気がなく、それならと「シニア層」にターゲットを絞られました。人目を引くためには目立つことも必要で、メンバーで取り組んだ成果の一つが神戸新聞に「シニアでJIS認証」という形で取り上げられました。後日、記事を見たシニアの方が「今空いていますか？」と問い合わせしてこられ、大手企業を退職した60歳の方をひとまず採用したのがシニア雇用の第一歩となりました。

その後、地元・三田市における口コミ、ニュータウンの街開きやリタイヤした人々の居住の増加も重なり、60代の方を次々に雇用しました。自社にとり「金の卵」で、64歳から最高齢81歳までおられます。

製品品目を絞る

ところで、零細企業の扱う金網は、大別して以下の4種類があるそうです。

①亀甲金網 ②織金網（例；茶こし） ③ひし形金網 ④クrimp金網（例；餅網）

自社では、「ひし形金網」のみを扱っています。シニアにとって作業しやすいスタイルに絞ったら、種々のメリットがあり、「数量が読める」、「作業内容が面倒でない」ため、効率が1.2倍に向上しましたし、皆で自主的に取り組むようにもなったとのことです。



「うちは真逆や。」という気づき

ここで自社のカラーはと言えば、大手の仕事をやめた後が見えていないと思いましたが、「うちは真逆や。」と気づき、他社の多品種生産に対して、自社は単一品目を生産し、しかもシニアだけを採用しています。

シニアを誘うには言葉の力も必要

「シニアのワーキングサークルに入りませんか？」、「来週は金網教室をやりますが、一度来ませんか？」、「一度、体験しませんか。」と誘い、1週間体験された方が入社に結びついた例もあります。入社された後もシニアが楽しく働ける工夫が必要で、一つのことに集中して皆で共通課題を解決したりしています。

理事長、そして社長としての思い

社長は西日本金網協会の理事長になり3年目に入りましたが、恩返しの意味でもあると思っておられ、自社は下請け企業に徹し、同業者に対しては「同業者を下で請ける」と位置付けておられます。

また、「社長の夢」という話に言及すると、社員が退職する時に「会社は良かったわ。」「おもろかったの連続やった。」と言ってもらえることでしょうかと、とても穏やかな口調で話されました。

全体を通じて、社長の言われる「逆転の発想」は奇をてらうことなく、ごく自然になるべくしてなったという印象を受けました。そのことが、聴く側にとっても非常に親しみやすく感じたのかもしれません。

「前頭葉を鍛えよ！」「不老脳」のご紹介

明るいシステム倶楽部会員

黒田 能弘（よしひろ）

前回の『老いては「好き」にしたがえ！』著者・片岡鶴太郎さんに引き続き、本の紹介となります。今回は、『不老脳』著者：和田秀樹さんです。ご存じ和田さんは、高齢者専門精神科医であり、『70歳が老化の分かれ道』、『80歳の壁』などのベストセラー作家でもあります。

始めに——**あなたと日本が元気を取り戻すには** として、こうあります。

40代に入って、「あれ、おかしいな」と思ったことはありませんか。50代に入って、でもよいですし、60代でも70代でも同じことですが、「やる気が出ない」「発想力が衰えた」「気がついたら同じ著者の本ばかり読んでいる」・・・などといったことに心あたりがあれば、注意した方がよいことがあります。前頭葉が衰えているのかもしれません。

もちろんそれだけが原因とは限らないでしょう。身体機能の衰えやその病、自律神経やホルモンバランスの変化、そして中高年を襲う怖いところの病のうつ病・・・さまざまなことが原因としては考えられます。

ですが、脳の一部である前頭葉には「意欲を司る」という大事な役割があり、ここが衰えれば何をしてもやる気が出ないのは当然のこと。仕事への意欲を失えば頭を使わなくなるでしょう。体を動かしたいと思わなければ運動もしないでしょう。おいしいものを食べたいと思えなければ新しいお店の開拓もしないでしょう。前頭葉には言葉を操る、情報を処理する、感情を制御する、運動機能をコントロールするといったその人の「人間らしさ」そのものを司る役割がありますが、そうした「自分らしさ」を発揮できるのも意欲あってこそ。

ここが衰えてしまえば、あなたの創造性も粘り強さも宝の持ち腐れです。実は、精神科医として老年医学に35年間、携わってきたわたしが、今もっとも危機感を抱いているのがこの問題です。わたしが疑っているのは、「今の日本人は前頭葉が衰えているのではないか」ということです。と、警告されています。また、第2章では**チェックすべき7つの「機能不全」——こんな状態は要注意** として、項目だけですが、紹介します。

- ◆前頭葉の機能不全①「保続」
- ◆前頭葉の機能不全②「変化に気づけない」
- ◆前頭葉の機能不全③「ワンパターン」
- ◆前頭葉の機能不全④「アウトプットできない」
- ◆前頭葉の機能不全⑤「無関心」
- ◆前頭葉の機能不全⑥「孤独」
- ◆前頭葉の機能不全⑦「やる気が出ない」

そして、その第3章では、**◆前頭葉を鍛える5ヶ条**を次に挙げられています。

1. 「二分割思考」をやめる
2. 実験する
3. 運動する
4. 人とつながる
5. アウトプットを心がける

詳しくは紙面の都合で省略しますが、私たち幸齢者には、大変参考になる新書かなと思います。

「新・終活」アドバイザー 兼 NPO法人高齢者・障がい者後見人の会 代表

◆西国三十三所札所巡り旅 (14) 西国 第 13 番札所 (石山寺)

石光山 石山寺 (滋賀県大津市)

本 尊：如意輪観世音菩薩

明るいシステム倶楽部会員：阿久根芳臣

行 程：大阪市内から 53k m (蒲四～茨田浜、第二京阪道、京滋バイパス、国道 1 号)
岩間寺から 5k m (一部幹線道路)

先回の岩間寺と今回の石山寺は距離にして 5Km と近く、車で 10 分程なのでどちらを先に行ったとしても 1 日で両方じっくりと参拝出来る。

琵琶湖の恵みを受けて豊かな水量を誇る瀬田川の右岸を、名橋・瀬田 唐橋 から徒歩 15 分ほどで東大門 (重文) に至る。広大な寺域を持つ石山寺は 747 (天平十九) 年開基の由緒ある真言宗の名刹で、歴代皇室の尊崇も厚く、平安期の貴族もこぞって訪れたとされる。

石山寺は“花の寺”であり、1 年を通じて境内に花の絶えることはない。桜の名所として名高いがその前には梅やスイセン、本堂 (国宝) に続く長い石畳の両側には燃え立つようなキリシマツツジが咲きそろろう。初夏からはフジ、ボタン、アヤメなど、秋になるとハギ、キンモクセイ、キクの香りが立ち込め、深秋には紅葉が全山を包み込む。更にムラサキシキブ、サザンカ、カンツバキ、まで揃う、まさに“花の寺”である。

石山寺は“石の里”でもある。寺名の由来とされる天然記念物の けいかいせき 硃 灰 石 の岩塊が荒々しく境内の中央に群をなして崖を演出してその威容を示している。その上には鎌倉期の建造で源頼朝が寄進したと伝わる日本最古の多宝塔 (本尊大日如来坐像) が建ち、俳聖松尾芭蕉ゆかりの芭蕉庵、月見亭、鐘楼 (重文)、御影堂と続いている。ちなみに芭蕉は同寺で「石山の石にたばしる あられ 霰 あけぼの かな」、「曙 は まだ紫に ほととぎす」などの句を詠んでおり、句碑が境内に立てられている。又、芭蕉庵の左手に建つ“月見亭”も石山寺を象徴する舞台で近江八景のひとつ「石山 秋月」をめでる場として古来から文人 ぼっさやく 墨客 に愛されてきた。

石山寺は“紫式部ゆかりの寺”でもあって金勝山からのぼる名月を眺めながら「源氏物語」

須磨・明石の章を書いたのはあまりに有名だ。本堂脇には「源氏の間」もあり、卓上には式部が使ったとされる ^{すずり} 硯 も置かれていた。他にも寺内には式部の絵姿のほか、石山寺縁起(重

文)、「源氏物語・末摘花の巻」(重文)や松平定信が寄進した「源氏五十四帖」などゆかり

の品が多数所蔵されている。又、和泉式部日記や藤原 ^{みちつな} 道綱 ^{かげろうにつき} の母の「蜻蛉日記」もここで書か

れたともされ、「更級日記」を書いた菅原 ^{たかすえ} 孝標 ^{むすめ} の女 ^{さんろう} も参籠したといわれ、平安時代に花開い

た女流文学の ^{ようらん} 揺籃 の役割も果たしたと云われているらしい。

三尾山大日堂 (大津市黒津 1)

石山寺本堂・源氏の間 (国宝)

日本最古の多宝塔 (国宝)



境内全体図



